

車椅子使用者の夜の飲酒活動における バリアに関する考察

大森 宣暁¹・稲垣 具志²

¹正会員 宇都宮大学教授 地域デザイン科学部 (〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2)

E-mail: nobuaki@cc.utsunomiya-u.ac.jp (Corresponding Author)

²正会員 東京都市大学 建築都市デザイン学部 (〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1)

E-mail: inatom@tcu.ac.jp

本研究は、車椅子使用者に対するインタビュー調査を通して、車椅子使用者の夜間における飲食店での飲酒活動に伴うバリアを明らかにし、夜の繁華街を楽しめる都市と交通環境整備に向けた知見を得ることを目的とする。2022年3月～5月に、車椅子使用者計16名に対して、道路や公共交通、飲食店舗、情報検索、接遇等に注目して、飲酒活動におけるバリアとニーズをオンライン・インタビューで調査した。その結果、車椅子使用者に対して、夜の飲酒を伴う活動機会の選択肢を増加させるためにも、道路や公共交通、建築物等のハード面のバリアフリーと同時に、交通事業者、飲食店側が車椅子使用者のバリアとニーズに関する理解の向上と具体的な配慮を実践すること、すなわち「心のバリアフリー」が非常に重要であることが改めて明らかとなった。そのためには、車椅子使用者自身が積極的に夜の街に出かけ、飲食店を含めて多くの人々に、様々な方法でバリアとニーズを伝えていくことが求められることが示唆された。

Key Words: wheelchair users, nighttime, drinking activities, barriers

1. はじめに

我が国では、1994年のハートビル法、2000年の交通バリアフリー法、そして2006年のバリアフリー法の施行により、建築物および道路・公共交通のバリアフリーが急速に進んでいる¹⁾。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けた、ユニバーサルデザイン2020行動計画²⁾の決定やバリアフリー法の改正が行われ、心のバリアフリーの重要性も浸透しつつある。しかし、高齢者・障害者等の移動制約者が安全・安心・快適に利用できない、あるいは利用しにくい建築物、道路や公共交通も存在し、利用可能な交通手段および外出活動機会の選択肢は限定されているものと考えられる。また、移動制約者の中でも車椅子使用者は、段差や上下移動、出入り口や通路の幅員、エレベーターの大きさなどが物理的バリアとなり、特に飲食店は小規模店舗が多いことから、車椅子使用者が利用できないケースも多く存在する。本研究は、車椅子使用者に対するインタビュー調査を通して、これまでほとんど実態が明らかにされていない、車椅子使用者の夜間における飲食店での飲酒活動に伴うバリアを明らかにし、夜の繁華街を楽しめる都市と交通環境整備に向けた知見を得ることを目的とする。

2. インタビュー調査

車椅子使用者計16名に対して、2022年3月～5月にオンライン (Zoom) でインタビュー調査を実施した。調査対象者には、事前に個人属性や飲酒活動に関するアンケート調査票を送付し回答してもらい、インタビュー当日はアンケート回答内容の詳細について質問を行った。表-1に調査項目を記す。よく利用する飲食店や、インタビュー中に発言のあったキーワードについて、Web上で検索し、関連するWebサイトや画像などを表示しながらインタビューを実施した (図-1)。調査対象者の居住地は大都市から地方都市まで、使用している車椅子も手動車椅子から電動車椅子まで多様である。手動車椅子使用者よりも電動車椅子使用者の方が、より重度な障害を有する。インタビューでの回答概要を表-2に記す。

表-1 アンケートおよびインタビュー調査における質問項目

個人属性	<ul style="list-style-type: none"> 性別、年齢、居住地、車椅子の種類、障害
飲酒活動について	<ul style="list-style-type: none"> 頻度、交通手段、よく行くお気に入りの飲食店 交通に関するバリア、店舗に関するバリア 店舗の情報入手方法 良かった経験、悪かった経験 改善案、その他

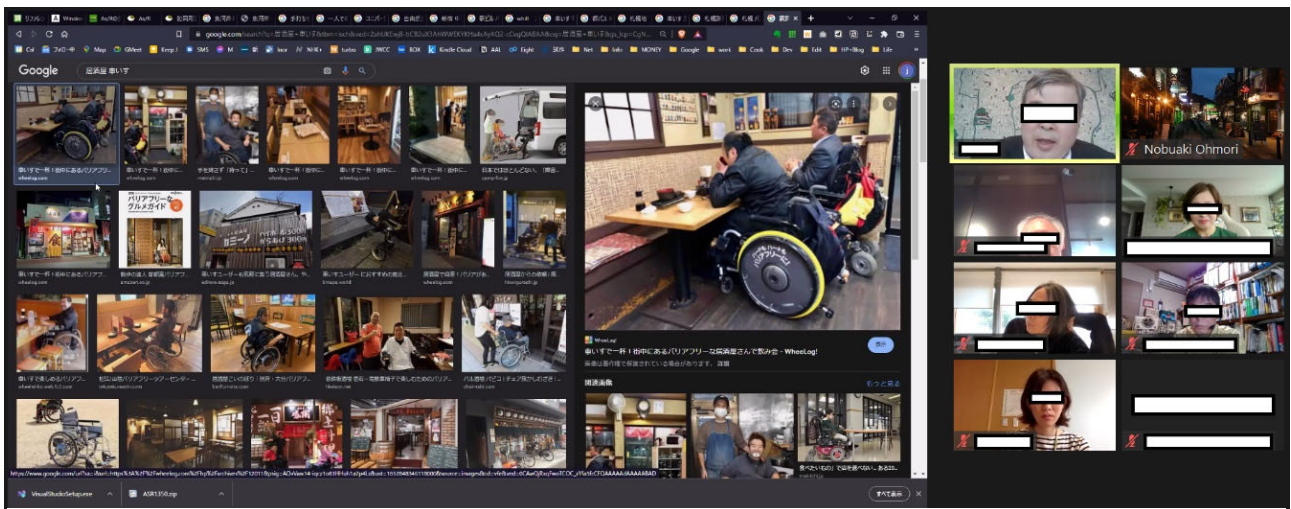


図-1 オンラインインタビュー調査の様子

表-2 調査対象者の個人属性とインタビュー回答概要

<p>No.1：男性、60代、電動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅からバスやタクシーで駅まで向かい、鉄道で都心に飲みに行くことが多い。 ・介護タクシーを利用する。予約が必要。UD タクシーはスロープ設置等に約 20 分かかる。運転手が慣れていない。車椅子使用者も積極的に乗車することで、運転手も経験を積めると思う。 ・防水の電動車椅子だが、雨に濡れることを避け、雨天時は介護タクシーを呼ぶ。 ・UD タクシーのように介護タクシーもアプリで選択できると良い。 ・自宅付近の終バスは 24 時過ぎのため、遅くまで飲める。 ・都心では、夜間、暗いと感じることはない。 <p>○飲食店に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒時はおむつを使用し、トイレに行く必要はない。 ・段差等で店内に入れなくても店外のテラス席等でよい。 ・立ち飲み屋は車椅子の目の高さに合わない。ビールケースでテーブル作っている店は良い。 ・店員が、車椅子使用者と出会う機会が少ないことが一番のバリア。 ・飲食店検索 Web サイトは、外観・内観の写真は掲載されているが、車椅子使用者のために掲載しているわけではない。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターを設置しなくても、折りたたみスロープなど少しのことで車椅子使用者が入れることを、社会に周知することが重要。車椅子使用になった当時は面倒だと思いつけていたが、今は積極的に店員とコミュニケーションをとるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスホテルのテナトの居酒屋によく行く。ホテルロビーにトイレがあり便利。24 時間利用でき、有人である点が良い。無人の公園の車椅子トイレは不安。電動車椅子で入れる店は少ない。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーな飲食店であるにも関わらず、バリアフリーマップ への掲載を断る店も多い。車椅子使用者が殺到して問題が起きることを懸念しているためのような。 ・コロナ禍でテイクアウトが増え、今まで行けなかったカフェのみの店の料理が食べられるようになった。弁当屋の路肩に自動車を止め、自動車に QR コードを貼り事前決済できる。 ・駅から目的地まで車椅子を押してもらえるサービス欲しい。 ・自分だけではなく、他の車椅子使用者に対しても、同じように丁寧な対応をして頂きたい。
<p>No.2：男性、40代、電動車椅子、政令市在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤で自動車を運転しているが、飲酒時は自動車は自宅においてタクシーを利用。車椅子を畳んでセダンタクシーに乗る。いつも同じタクシー事業者を利用。運転代行は、運転装置を触らせるのが怖くて利用しない。 ・夜間、ペDESTリアンデッキのエレベーターが運行しておらず、迂回する必要がある。 ・繁華街の裏路地に入ると照明・街灯が暗くなり、車椅子が道路の陥没部分や横断歩道の溝にはまったり、転倒したことがある。昼間は見えるが夜間は見えない。 ・店前で宴会終了後の集団がたむろしていて通行の邪魔。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可動式の椅子を外して車椅子でテーブルにつく。初めての店で固定席に移乗したことがあるが、あまりしたくない。 	<p>No.3：男性、20代、電動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UD タクシーは一度乗車したが、運転手が大変そうで申し訳なく感じた。 ・タクシー運転手、飲食店員など、サポートを受けたら、とにかくお礼を言うようにしている。 ・駅のエレベーター運行時間を終電まで延長してもらった。担当が鉄道会社かと思ったら行政の交通関係だった。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は固定席に移乗していたが、最近は体力的に厳しいため、固定席の店は避ける。 ・椅子が動かせて、段差がない店がよい。 ・店内で目立ちたくないの、外から覗いて空いていることを確認したり、空いている時間や、閉店間際を狙う。 ・大抵の店は、初めは店員が戸惑うが、3~4 回行くと店側も慣れてくるし、席が決まってくる行きやすくなる。
	<p>No.4：男性、40代、手動車椅子、地方都市在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁華街は明るい、帰宅時の道が暗くて、道路の段差、陥没、小石等を確認しながら、飲酒時は慎重に移動する。 ・自宅方面へのバスは 22 時過ぎまであるので、間に合えばバスで帰るし、間に合わなければ車椅子で帰る。自動車運転で行った場合は、運転代行も利用する。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子のままテーブルにつく。 ・段差のある店ではアシストをリクエストする。バリアフリー情報を掲載している店は、ウェルカムでアシストしてくれ、顔なじみ。 ・スロープをつけてくれたり、入口の玉砂利をタイルで解消してもらった店がある。

- ・段差がある店で入口の幅が狭くて入れない場合、店内の机を歩道に出してもらえると選択肢が広がると感じる。
- ・下町のある地域は、飲み人のための雰囲気があり、段差など関係なく、「こっち来いよ」と言ってくれる。
- ・東京は間口や店内が狭い店が多いが、客が席を譲ってくれることが多い印象。地方都市は車椅子使用者が少ないせいか、対応に困る人が多い印象。
- ・初めて行く店は、店側も客もどのように協力すればよいかかわからない。
- ・一緒に行く人に車椅子を持ち上げてもらって入ったことはあるが、帰りは皆酔っているため、店員に頼む。
- ・初めて行く店には Google ストリートビューで段差があるか確認し、段差があるなら 2~3 人で一緒に行くなど、自分なりのバリア解消方法を見出している。

No.5：男性、50代、手動車椅子、東京都市圏在住

○交通に関すること

- ・鉄道があれば鉄道、なければタクシーを利用する。UD タクシー利用時は、座席に移乗し、車椅子を折りたたむのが面倒なので折りたたまずに積んでもらった。
- ・雨用レインコートを常に携帯しているが、普段、濡れても汚れても良い格好をしているのであまり気にならない。

○店舗に関すること

- ・テーブル席の時は車椅子から移乗する。
- ・自分で店内を見て、大丈夫だと確認して入る。
- ・アシストをリクエストして嫌がられた店には二度と行かない。
- ・よく行く店は自宅から車椅子で3分、入口段差5cm未満。
- ・階段がある店で、店員に持ち上げますから大丈夫と言われたが、店員が2人しか来なくて不安で断ったことがある。
- ・ビル内の飲食店は賃貸であり改築・リフォームは難しいため、フロア面で何とかしてもらえない。

No.6：男性、40代、手動車椅子、東京都市圏在住

○交通に関すること

- ・飲酒後、酔った状態で、車椅子のキャスターを歩道の段差に引っ掛けて転んだことや、グレイチングに落ちたことはある。
- ・20時前は鉄道が混雑するので、時間調整で2軒目に行ったり、終電も混雑するので、少し前などを狙う。
- ・おれから UD タクシーに乗りしようとしたが、20分経っても完成形にならなかったため、とりあえず乗り込み車椅子を固定せずに出発。それ以来、座席に移乗している。

○店舗に関すること

- ・テーブル席の椅子を寄せてもらうことが多いが、小上がりやカクテルのハイアールに車椅子から移乗は可能。
- ・集尿器を使用しており、車椅子用トイレがなくても大丈夫。
- ・検索サイトでバリア情報も掲載されるようになったが、店員のバリアの知識が足らず、車椅子で入れるがバリアでないとの記載の店もある。電話でトイレ幅などを質問する。車椅子と伝えた瞬間、断られる店もあるが、車椅子のサイズや、慣れていることを伝え、店側に理解してもらう。
- ・駅直結の飲食店がお気に入り。
- ・入れるか入れないかは、ハード面より、店員次第と感じる。
- ・友人でバリアの店や、バリアでないが車椅子使用者ウエルカムな店を Web で公開している人がいる。
- ・YouTube の飲み歩き動画から情報入手。入口、店内の動線、トイレを確認する。自分でも YouTube で飲み歩き動画を公開。情報があれば行動範囲が広がる人が沢山いると思う。
- ・Web や SNS が普及していなかった頃は、車椅子使用者の先輩から店の情報を得ていた。

○その他

- ・東京より関西の方が、周囲の人々が自然と話しかけてくれる印象。

No.7：男性、40代、手動車椅子、東京都市圏在住

○交通に関すること

- ・公共交通は天候にも左右されるため好きではなく、自動車で飲みに行く。または駅直結の店に行く。
- ・タクシーに電話して、折り畳めない車椅子だと伝えると、車に積みないと断られ、車輪を外せば載せられると説明したが、タクシー事業者にイジリがなかったため結局断られた。

○店舗に関すること

- ・テーブル席の椅子を寄せてもらうことが多いが、畳席や掘りごたつに移乗も可能。長時間、固い所に座る場合は車椅子のクッションを敷くが、座高が高くなりバランスが悪い。
- ・集尿器を使用しており、約2時間はトイレに行く必要なし。駅近くなら駅の多目的トイレを使用することが多い。
- ・食ベログやぐるなび等で入口の段差がないか、テーブル席があるか写真で概ね確認してから、電話で最終確認。駅かや駅直結で雨に濡れない店が良い。検索サイトのバリア情報は基準が曖昧。実際は店員とコミュニケーションとらないとわからない。
- ・YouTube は障害者が情報を発信できるプラットフォーム。簡単なポートで車椅子使用者が入れることが多くの人に伝わってほしい。
- ・一人で飲みに行き、店員にタクシーで大丈夫と伝える。
- ・店側にバリアに関する知識がない。トイレを大きくしたり、スロープを作らなくても、ちょっとした支援で対応できることを、何度も足を運ぶことで店側に理解してもらうことが重要。何度も行く店は、行く時間になると店員がドアを開けておいてくれたり、車椅子の介助も上手になり、気持ち良い。
- ・Web や SNS が普及していなかった頃は、車椅子使用者の先輩から店の情報を得ていた。

○その他

- ・夜の街バリアマップを作れるコミュニティを作って、問題提起したら街が変わるきっかけになるかもしれない。
- ・子どもは純粋に車椅子使用者に話しかけたり質問してくるが、親がそれを制止することがある。

No.8：男性、60代、手動車椅子、政令市在住

○交通に関すること

- ・終電は刈刈高い。降車後、自宅までの交通手段も心配。
- ・夜、暗さと酔いで段差につまずき落車経験あり。光の加減でキャスターつまずく。酔っていると油断して段差を見逃す。
- ・UD タクシーはスロープ設置に約10分かかるため、急いでいる時は、雨が降っていなければ自走する。
- ・地下鉄は上下移動に時間がかかる。ノスタップバスは待ち時間なく乗れる。以前は嫌な顔をされたこともあるが、最近は社員教育が進んできたのか、バス運転手も親切になってきた。終バスの時刻は22時頃と早い。

○店舗に関すること

- ・座敷に移乗できないこともないが、トイレの心配もあるため車椅子のまま飲食することが多い。
- ・車椅子トイレがあり、テーブル配置を自由に変えられる店が良い。5cm くらいの段差は越えられる。
- ・一番の心配はトイレ。初めての街は、飲食店付近のコピーや公共施設、駅の車椅子トイレの場所を確認する。
- ・Web で調べても画像がないと段差や幅がわからない。トイレの写真はない。Web で車椅子トイレがあるという情報があったり、電話で確認しても、行ってみたら段差や狭さで利用できないこともある。電話もあまり信用できない。写真か自分の目で確認するしかない。
- ・何度も行って顔なじみになると「さらに使いやすくなるためにはどうしたらよいか？」と店長が聞いてくれる。コミュニケーションが良くなると色々な配慮をしてくれる。
- ・屋台は車椅子でも全く関係ない、知らない人同士も会話がある。トイレも公園などに整備されている。

<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線の多目的室はトイレも近く、Web 環境も悪くなく、最高の仕事場になるし、くつろぎの場所にもなる。 	<p>No.12：男性、40代、電動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セグウェイ型の車椅子を使用。 ・手動運転装置を知らず、自動車運転免許を失効した。 ・夜間、車椅子のライトを点灯すれば問題ないが、他人にぶつかり相手を傷つけてしまうことが不安。石ころを踏むと夕々に悪いため、夜道は特に地面に気をつけている。
<p>No.9：男性、30代、手動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒時以外は鉄道に乗らない。 ・タクシー乗車時は車椅子を畳んで乗車。タクシーは1～2分かかかるが、UDタクシーは約30秒で乗降可能。 ・バスは過去に嫌な思いをしたので極力乗らない。ラッシュ時、乗客を待たせるのも嫌。 ・タクシーをアプリで呼ぶ。自治体タクシー券は紙で使い勝手が悪い。 ・終電は混雑しているため乗らないようにしている。満員電車で車椅子のルームがゆがんだことがあった。他の乗客にけがをさせたくないし、自分もけがをしたくない。 ・インターロックがブロックの道路は補修整備されておらず、躓いて転倒したこともある。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定席に移乗可能だが、状況を見て移乗するか決める。 ・店入口の幅と段差を確認。雑居ビル多いと店限られる。個人の居酒屋は入れてもトイレがないので、大きめのビル内の店に行くことや、多くのコンビニには車椅子で入れるトイレがあり、コンビニ近くの店に行くことが多い。コロナ禍で閉店時間が早まること、さらに選択肢が狭まる。 ・Web情報は参考にならないため、現場に行き探す。 	<p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年前に車椅子生活になってからは、駅近くの大型デパートでの飲食が多い。自分の移動、手が届かない、物を動かさない、という三つの大変なことがあると感じる。 ・小さめのビルはトイレがないため、駅のトイレを使う。入口に段差があると入れない。デパートなど大きなビルの店を選んでいる。トイレが一番の問題である。 ・車椅子利用者初めのアプリやWebでお店を調べる。写真を見てもわからない。トイレの写真情報は無い。障害者の知り合いの情報が頼りになる。 ・物を落とした時、周囲の人が拾ってくれたり、届かない時に声をかけてもらう時は助かる。 ・手を伸ばせないため、膝に乗せるトイレを出してもらったのはありがたかった。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・珍しい車椅子のため、子供が笑顔で近寄ってくる。 ・名刺のように、自分の取扱説明書を作ると良いのでは。
<p>No.10：女性、20代、手動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒時は、ほぼ鉄道で移動。 ・地元のバスに乗ろうとした時、運転手が、どう対応してよいかわからなかったことがあった。東京では毎日バス通学で、運転手も顔見知りになった。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補装具を使えば歩くことができる。席に移乗可能。気分によって、席に移乗するか車椅子のままかを選択。 ・事前に調べず歩き回って店を決める。 ・店外のトイレを使用するのは好きではない。店内のトイレが小さい場合、補装具で立って利用する。 ・トイレはそれほど問題にならず、店自体が重要。 	<p>No.13：男性、40代、電動車椅子、政令市在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100kgの電動車椅子を使用。 ・常に介助者と共に行動。 ・地下鉄やバス利用が多い。スロー／リフト付きタクシーも使う。夜は、郊外は終バス時刻が早く、地下鉄とタクシーを使う。 ・20年以上電動車椅子を使用しており、ライトも点灯するし、夜、怖い思いはしたことがない。 ・道路上の仮設スローを道路交通法で許可して欲しい。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく行く店は入口に鉄板を敷いて段差を解消している。 ・県庁所在地など、中心街は比較的整備が進んできているが、郊外にいくとバリアフリーの状況はよくない。 ・集尿器を使用しているため、車椅子トイレは必要ない。 ・大きなビルの店に行くことが多い。 ・Webで調べて行きたいと思った店に電話をし、段差や店内の状況を確認。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子に対するバリアフリーは、社会にとってコストと捉えられているように感じる。
<p>No.11：男性、30代、手動車椅子、地方都市在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から自動車移動が多く、飲みに行く時は自動車で送迎してもらおうか鉄道を利用。 ・鉄道混雑時に、駅員に誘導・サポートを頼むときに、2～3本電車を遅らせ後回しにされる。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子のままテーブルにつくこともあれば、店内が狭い場合は車椅子を玄関に置いて、店内で椅子に座ることもあるが、できるだけ広い店がよい。基本的にチェーン店に行く。 ・東京在住時はマンションから駅まで直結で雨に濡れず、鉄道降車後も駅直結の店に行く。ホテルはエレベーターも大きい。夜、暗いと感じたことはない。 ・トイレはあまり困っていない。置き引きが怖いので、荷物をトイレまで持っていくのが大変。 ・食べログなどで検索して、予約する時に電話で確認する。 ・コロナ禍もあり、店員に声掛けされることが嫌だし、自分から声をかけるのも面倒。自分で解決してしまおうと思う。 ・初対面の人に自分はこれができる、これができないと説明するのが面倒。店員より、一緒に行く人、知人、友人など身近な人にしっかり伝えることが重要だと思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都心部より地方はバリアフリーが遅れている印象。 	<p>No.14：男性、50代、手動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首から下がほぼ動かず、常に介助者と行動。 ・UDタクシー運転手でスローの設置方法がわからない人もいる。 ・地下鉄は混雑しているため、時間に余裕がある時は一本見逃すことがある。 ・都バスは車椅子2台乗車できるので、待たずに乗れる。 ・暗いと1段の段差見えない。介助者は後方から車椅子を押すため、前方下は見えないこともある。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きつけの店に行く。入口と店内がよほど狭くなく、席が固定の店以外は通りがかりでも入れる。1～2段の段差は問題ない。 ・Webで入口や座席の状況を写真で見られると判断ができるので、そのような情報は増えてほしい。 ・これをずらせば入れる、椅子の位置を少し変えてほしい

<p>など、店員に色々頼むが、対応してくれる店が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードに関しては、入口の段差を解消し、トイレを車椅子で使用できるようにすればよい。 ・どうしたらバリアを解消できるかを、障害当事者、店舗経営者、施設管理者と一緒に考えることが重要。
<p>No.15：女性、60代、手動車椅子、政令市在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒時、手動車椅子は疲れるし力が入らないので大変。 ・居住地がバリアフリー基本構想の重点整備地区のため歩道は広いが、歩道上に夜間違法駐車があることがある。 ・駅に近い地下鉄によく乗るが、スロープが必要なため時間がかかる。混雑時、どこにいれば邪魔にならないか考える。路面電車は駅が遠く乗ったことがない。バスは運転手が慣れていないためあまり乗らない。一時期、手動運転の自動車を運転していたが、今は夫に運転してもらっている。 ・大雪時、外へ会社で予約を受け付けていなかった。 ・初めて行く地方都市では、事前にその地域の人に車椅子で行けるルートを調べてもらう。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルと車椅子の座面の高さが合わないと食べづらいし、相手と視線が合わない場合、席に移乗する。 ・バリアフリーが近くにあり、駅直結で段差がないため駅ビルや駅のコンコース内の店に行くことが多い。トイレがない店では、早めに退席することもある。 ・Web サイトで「車椅子の人も是非来て下さい」とメッセージがあり、接客も良い店もよく行く。 ・Web で情報見ながら、店舗に電話して車椅子でも入れるか確認することが多い。 ・コロナ禍でテラス席が増えているように感じるが、雪国では冬は寒いので期間限定になる。 ・以前、入口に 2~3 段の段差があり、店員に手伝ってもらえるか頼んだら、今、スタッフがいないため 90 分待って下さいと言われたことがある。店員が介助方法を知らない。 ・夫が介助。周りの若者にちょっと手伝ってと声をかける。地域の人をどんどん巻き込んでいければよい。 ・コロナで存続している店は接客が良いしバリアフリーだと感じる。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉旅館での絨毯は、車椅子が埋まって動けない。 ・市民がバリアフリーを知らないことがバリア。ハードだけでなく心のバリアフリーも欠かせない。 ・車椅子使用者も努力が必要。親切な行為に対して感謝を述べるのが重要。相手の立場を考えることも必要。
<p>No.16：男性、40代、手動車椅子、東京都市圏在住</p> <p>○交通に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急いでいる時に駅でエレベーターを探すのが大変。 ・バスの運転手は慣れていない人もいて、段差の前に停車したりすることがある。 ・夜間、道路が暗くて段差が見えず、酔っていて転ぶことはある。 <p>○店舗に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定式の椅子にも移乗可。 ・車椅子ではトイレが狭くてドアが開かない時に、店員が他の客が来ないように見張っておいてくれたことがある。 ・車椅子使用者の中では動ける方なので、ハード面よりも、ソフト面の改善、店員の対応がムズで自然であると嬉しく思う。 ・店員が少しだけ手を貸してくれれば入れる店はある。 ・Google ストリートビューで店の入口を確認することもある。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大都市より地方都市の方が、障害者に慣れていないように感じる。

3. 分析結果

(1) 交通に関するバリア

道路に関しては、夜間の暗さと、飲酒による身体への影響により、車椅子で転倒して落車した経験がある人も多かった。また、介助者に車椅子を押してもらう場合には、夜間の暗さによって介助者が路面の段差等を見落としてしまう場合もあることがわかった。また、地方都市の繁華街では、夜の暗さがバリアとなることが多いが、東京など大都市の繁華街では夜は移動に支障を来さず暗さという認識がないことがわかった。

公共交通に関しては、鉄道の場合、混雑している時間帯に車椅子で乗車することが困難な場合が多く、終電など混雑している時間帯を避けて、早めに飲食活動を切り上げるケースが多数認められた。終電を利用した場合に、自宅付近の鉄道駅からのイグレス交通手段に不安があるとの意見もあった。バスは、特に郊外部は鉄道と比較して夜間の運行終了時刻が早いという制約がある。また、バスの運転手が車椅子使用者の乗車に慣れていない場合もある。タクシーは、利用する事業者を決めている場合が多く、車椅子使用者の乗車に慣れている事業者や運転手が好まれる。近年、急速に普及したユニバーサルデザイン (UD) タクシーは、運転手がスロープの設置等に慣れていないと、乗降に非常に時間がかかるとの意見が大半であった。このようにバスやタクシーの利用では、日中と同様の事業者による提供サービスのばらつきが当然夜間にも存在しており、特に交通手段の選択に制約が生じやすい夜間は、車いす使用者の個人的なつながりや情報に依拠する点が大きいが推察できる。

(2) 飲酒店に関するバリア

ハード面では、飲食店入口の段差と幅、店内のテーブルとイス等の配置や固定されているかどうか、車椅子で利用できるトイレの有無が、重要な要素であることがわかった。車椅子使用者は、飲食店の固定席や座敷等に車椅子から移乗することができる人もいるが、その時々状況で使い分けられていることがわかった。また、入口の段差や店内の狭さで、店内に入れないとしても、コロナ禍で普及が進む店外のテラス席などで飲食が可能であれば、その飲食店を楽しむことができるという意見も多かった。小規模店舗では物理的なバリアフリーに投資することが困難であることが多いが、サービスのソフト面の対応の工夫によって合理的配慮がなされることで、飲酒活動への参加が担保できる可能性が大きい。

トイレの利用は、車椅子使用者が夜間に飲酒を行う際に深刻なバリアとなる懸念があり重要な視点である。店内に車椅子で利用できるトイレがない場合は、店舗周辺の近距離に利用可能なトイレの存在が大きな利用立地

条件となる傾向があった。そのため大型のビルや駅ビルの飲食店、ホテル内の飲食店を利用する車椅子使用者が多かった。また、おむつや集尿器を着用し飲酒活動中にトイレに行くことを回避する人もいることがわかった。

店舗の情報に関して、初めて訪れる街などで飲食店を探す時には、「食べログ」や「ぐるなび」等の一般的な飲食店情報プラットフォームで提供されている写真を事前にチェックすることで、店舗のバリアフリー状況を確認する人が大半であった。その後、候補となる飲食店に連絡を取り、入口の段差、店内、トイレについて、自身の車椅子で利用できるかの詳細を確認する人が多かった。しかし、店舗側の車椅子使用者に対する知識が十分でない場合には、Web サイトや電話対応等での情報提供内容が適切でない場合もあり、信頼度に問題を有する場合もあることがわかった。

飲食店員の接遇に関して、車椅子利用者への対応に不慣れな店舗に初めて訪問する場合は、合理的配慮の知識不足から対応に戸惑うケースが多いが、車椅子使用者本人ができることできないこと、必要な支援方法を具体的に説明し訪問を繰り返すことによって、理解が深まり適切で親切な対応をしてもらえるようになるとの意見が多かった。店員からどのような支援をすればよいか、声をかけてもらえるとよいとの意見も散見され、相互理解に向けた基本的知識の浸透や、車椅子利用者・サービス提供側双方からの主体的なコミュニケーション姿勢が求められることがわかった。

4. まとめ

本研究では、車椅子使用者に対するインタビュー調査を通して、車椅子使用者の夜の飲酒活動におけるバリアとニーズを、道路や公共交通、飲食店舗、情報検索、接遇等に着目して、具体的に明らかにした。

東京をはじめとした大都市の繁華街では、夜間に暗

さによる大きなバリアを感じる人は少ないようだが、段差等を視認しにくい場合が多いことから、一定の照度を確保することが課題である。公共交通に関して、鉄道の終電近くの混雑状況やバスの運行終了時刻の早さが課題として挙げられるとともに、車椅子使用者の対応に慣れていないバスやタクシーの運転手に対する接遇の教育も必要である。また、バリアフリー情報を掲載する飲食店検索 Web サイトも増えてきているが、ハード面のバリアフリー整備がされている店舗であっても、バリアフリーであるという情報を掲載しないしてほしいという要望を持つ飲食店もあることがわかった。その理由は、車椅子使用者が多数来店した場合等に、店舗側が十分に対応できないことを心配しているためのものである。車椅子使用者に対して、夜の飲酒を伴う活動機会の選択肢を増加させるためにも、道路や公共交通、建築物等のハード面のバリアフリーと同時に、交通事業者、飲食店側が車椅子使用者のバリアとニーズに関する理解の向上と具体的な配慮を実践すること、すなわち「心のバリアフリー」が非常に重要であることが改めて明らかとなった。そのためには、車椅子使用者自身が積極的に夜の街に出かけ、飲食店を含めて多くの人々に、様々な方法でバリアとニーズを伝えていくことが求められることが示唆された。

謝辞

本調査の実施においては、株式会社バリアフリーカンパニーに多大なるご協力を頂いた。ここに紙面を借りて謝意を表します。

参考文献

- 1) <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html>
- 2) https://www.kantei.go.jp/jp/singi/to-kyo2020_suishin_honbu/ud2020kkkaigi/index.html

(Received September 30, 2022)